

事をしなくてはいけないということではないと考えます。私も妻が疲れているときは、自分の出来る範囲で協力しています。

これだけやってあげているのだからとお互いに求めるのが、いざこざの原因になりますので、求めるのではなく、互いに出来ることをするという事です。時にはケンカもしますが、それが自然なのだと思います。



藤田 貞弘さん (平幕ノ内)
 自営業 長男高校2年生
 二男中学3年生 長女小学1年生

藤田:深夜営業なので生活も不規則ですが、朝食を家族全員でとり、ひと声かけて学校へ送り出すことを心がけました。挫折もありましたが、子どもとコミュニケーションをとろうとする気持ちがあるのとないのとでは違うと思います。

また以前、妻が入院したときには、ご飯もどうしてよいか分からず、妻の存在の大きさを知らされました。今は、下の子がまだ小学1年なので5分でも10分でもふれあいを大切にしています。

●学校・地域社会で

鈴木:最後に、皆さんはPTAや地域などで熱心に活動されていますが、その点についてご意見をお願いします。

小野:幼稚園・小学校のPTA役員をしていますが、父親の関り方は希薄だと感じます。時間のやりくりが難しく、日中は行けない集まりが多いのですが、できる関り方があると思うのです。子どもを育てる責任や価値、そして楽しさを感じてほしいし、PTAに関することは子供を育てることなので、多くの人に関心を持ってほしいです。

小西:昨年まで高校のPTA会長をしていましたが、小中学校に比べ、関心が薄れるのか1年時の総会の出席率は30%位でした。出席を促すため、先生方と相談し、過去3年間の進学就職状況の資料を作り保護者に示したところ、2年目は920人中700人の出席がありました。子どもが目標を持ち進学してくるのに「親が学校に無関心」で情報も集めないのでは、その目標を達成することができないのではないのでしょうか。

地域では、ボランティアとして卓球の指導に力を入れています。会社のガレージ内で毎日20数名に技術を教えていますが、好きなことがある子は横道にそれないと思います。



田子 英彦さん (中央台飯野)
 自営業 長男高校1年生
 長女中学1年生 二男小学4年生

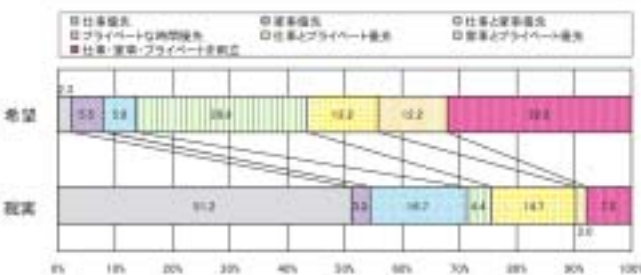
田子:女性と男性の違いはあると感じています。

例えば、PTA活動では女性は細やかに活動してくれますが、何か問題が起きたときにどうしてよいか分からなくなる場合もあるんですね。逆に男性はおおざっぱというか気にしない、核心のところだけ直せばいいという方が多いです。ですから、それぞれに持ち味があってよく、男女が協働で物事を運ぶことが大事だと思います。

藤田:平成13年に小学校で『親父の会』を立ち上げました。学校と関りが少ない父親に活躍してもらおうと、一人一役制度を設け自分のできるところに出てもらうことにしたのです。今年やっと軌道に乗ってきたように感じます。会員のつながりを深める機会になればと生まれたのですが、現在はOBの参加のほうが多いので、現役の父親たちがもっと参加してくれるように努力をしているところです。

鈴木:いわきにも素晴らしいお父さん方がいらっしゃるのだと感動しました。状況はそれぞれですが、仕事や家庭での皆さんの姿勢が自然に男女共生とワーク・ライフ・バランスの輪を広げることになるでしょう。今日は良いお話をありがとうございました。

ワーク・ライフ・バランスの希望と現実(男性: 離婚有業 n=1,629)



既婚者の男性において、生活のなかで「仕事優先」を希望する人の割合は約2%に過ぎず、「仕事・家事・プライベートを両立」を希望する人が約32%を占めている。しかし、現実には、5割以上の人が「仕事優先」となっており、希望と現実の間に大きな乖離が見られる。

内閣府「ワーク・ライフ・バランス」の基本的方向中間報告より